

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立大垣北高等学校

学校番号

32

1 学校教育目標	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、“誠実・友愛・努力”を本校の生活信条とし、その具現に努める。
2 現状の分析	○生徒、保護者ともに教員に対して信頼が厚い。 ○学習面だけでなく基本的な生活習慣の確立に向けても指導体制ができています。 ▲ネット社会への対応として、情報モラルに係る指導の徹底。 ▲教職員の働き方についての見直し。
3 学校の抱える課題	・働き方の見直し。超過勤務職員が多い。（学校経営） ・学力を伸ばしていくために効果的なアクティブラーニング型授業の在り方の検討及び低学年での家庭学習習慣を定着させるために各教科において課題内容や量を吟味する。（学習指導） ・大学入試改革が進む中、本校としての全校支援体制の強化や職員間の共通理解を図る。（進路指導） ・生活安全委員会、育友会及び外部機関と連携し交通安全教育のさらなる強化。また情報モラルに関する指導等を通して他者への配慮や人権意識についての指導の強化。（生徒指導）
4 今年度の具体的な重点目標	◇働き方改革と教育の質の担保の両立を図る。 ◇生徒の実態に即した授業を展開し、確かな学力の伸長を図る。特に2021年度大学入試の改革に対応する授業を実践する。 ◇主体的に進路を選択決定できる能力の育成と進路指導の実現を図る。 ◇自ら思考・判断でき、心身ともに健全で品格ある生徒の育成を目指す。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学校経営	①部活動規定の徹底	1か月の時間外勤務が80時間を超える職員をなくす	①休養日及び指導日数等を徹底した	B	○職員が最終退勤時間を意識して業務に当たるようになった ○朝礼を1日減らし、全員への連絡はインフォメーションで行うようになった ○留守番電話機能が有効に利用されている ▲スクラップできる業務の検討が必要	A B C D
	②インフォメーションの積極的な活用		②全職員への連絡はインフォメーションを使用した	A		
	③勤務時間外の保護者連絡手段の見直し		③平日、休業日、長期休業日の3段階で留守番電話を設定した	A		
	④すべての校務分掌における業務の見直し		④各分掌で検討途中である	B		
	⑤最終退勤時間の設定		⑤年間を通して午後9時と設定し、それ以降の残業の場合は管理職への届け出制とした	A		
学習指導	①学校全体を及び各教科において、ALを視点とした授業改善の目標を掲げ実践研究を行う	①全ての教員が、授業改善の目標と関連付けた公開授業を年2回以上実施し、他の教員の授業も年2回以上参	①学校全体の目標として「授業改善7か条」を設定し、これに基づいて各教科とも改善目標を設定した 全員が相互授業参観週間（計2週間）	A	○ALを視点とした授業改善目標を全職員で共有することができ、高大接続改革や次期学習指導要領実施にむけて本格的	

	②1・2年生において、これまで週2時間で実施していたSGHの学校設定科目の内容を見直し、思考力・判断力・表現力を育成する体系的な学びを週1時間で実現する	観する ②平成31年度から実施する総合的な学習の時間の効果的な教育課程を構築する	で計2回以上の公開授業を参観した ②4年間のSGH課題研究の蓄積を生かし、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、地域課題の解決からグローバル課題の解決へと視野を広げる体系的なプログラムを確立することができた	A	な準備に入ることができた ▲「総合的な探究の時間」や各教科で、教科横断的で探究プロセスを組み込んだ授業づくりに取り組む必要がある
進路指導	①平日の補習授業や土曜日の特別講座、各種テストに向けた緻密な学習指導に加え、3年生に対する国公立大学個別学力検査直前までの特別編成授業等を通して、進路志望の実現に向けた学力を育成する	①最難関大学20人以上、難関大学50人以上、国公立大学230人以上の合格を目指す	①平日の補習授業、土曜特別講座、各種テストに向けた学習指導を通して進路実現のための学力育成を図りつつ、各種外部模試の受験啓発も積極的に行い、入試への動機付けに努めた また、3年生に対する特別編成授業の計画・実施に加え、各生徒の進路実現に向けた検討会も行い、学校全体で進路実現をサポートする体制を作っている	B	○「進路のしおり」「進路だより」の発行、進路情報誌の配布、進学講演会、学年集会等を通して、生徒各自の進路意識の高揚を図ることができた ○ポートフォリオノート等を活用し、1年生から将来の進路に向けて考えさせる機会を提供することができ、早い段階から進路意識を高めることができた ▲最難関大学20人以上、難関大学50人以上、国公立大学230人以上の合格については、現時点で未定であり、最後まで粘り強く頑張りたい
	②2021年度の大学入試の改革に向けた情報収集を迅速かつ正確に行い、新たな大学入試に対応できる指導体制を構築するとともに、ポートフォリオを導入し、将来進むべき道を自ら主体的に考える力を育成する	②大学入試改革に関する情報共有を随時行うとともに、ポートフォリオの導入及び活用状況の確認を年3回以上行い、適切な進路指導に繋げる	②新大学入試制度に向け、情報収集を行いながら、迅速に対応できるよう全職員に情報共有を行うとともに、1年生にはポートフォリオノートを導入し、学びの履歴を各自で記入させ、それぞれの進路について自ら主体的に考える力の構築を図った	A	
生徒指導	①「交通安全」「情報モラル」「薬物」「人権」に関するLHRを通して、人権及び生命を尊重する意識や社会人になるためのモラルの育成を図る	①「交通事故ゼロ」「情報モラル違反ゼロ」「いじめゼロ」を目指す	①自転車反射材の取り付けを徹底した。また、LINE(株)の講師による講話や定期的な通信の発行により、情報モラルと人権意識高揚の啓発に取り組んだ	B	○情報モラルやいじめに関してはゼロではないが、例年よりも積極的な啓発活動に取り組めた。身だしなみに関しても全体的に大きな乱れもなく、落ち着いた雰囲気で学校生活を過ごさせることができた ▲交通事故は例年並みに多く、大幅に減少させることができなかった。継続して啓発していきたい
	②身だしなみ指導やMSLによる交通安全啓発活動及び挨拶運動を通して、規範意識の高揚を図るとともに、マナーの育成・向上を図る	②毎週金曜日の身だしなみチェックデー及び年間6回の身だしなみ強化週間を実施し、端正な身だしなみを保つ。また、毎月2回のMSLによる交通安全啓発活動及び挨拶運動を実施する	②毎週金曜日の身だしなみチェックデー及び年間6回の身だしなみ強化週間を実施し、端正な身だしなみの啓発に取り組んだ。また、毎月2回のMSLによる交通安全啓発活動及び挨拶運動を実施した	B	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月16日

全体の評価としてはおおむね良いのではないかな。

1 学校経営

教員の働き方改革として多くの取り組みをしている。今後も継続的に改革検討をしてほしい。教育はただ単に時間の削減でいいというわけではない。志を高くその後大きく花開く生徒の育成を考えればかなり検討しないといけない。教育の本質からずれるような改革にならないように留意してほしい。

教員以外でも可能なことについては、保護者やOBを活用することも一つの策ではないか。活用されたい。

2 学習指導

学校全体の目標として「授業改善7か条」を設定し、これに基づいて各教科とも改善目標を設定するなど新しい取り組みがなされている。AIを視点とした授業目標が各教科で意識的に設定できたことはよい。来年度は、総合的な探究の時間についてのさらなる研究が必要となってくる。

3 進路指導

大学入試改革に向け早速ポートフォリオ等を活用した進路指導がされていてよい。今後も新大学入試制度について情報収集し全職員で共通認識して生徒の指導にあたってほしい。

4 生徒指導

交通安全指導については、継続的に指導をしてほしい。正しい情報モラルや正しい人権意識の高揚にも努めてほしい。

12 来年度に向けての改善方策案

1 学校経営

- ①夏季休業期間中の閉庁日の設定、部活動方針の策定とその遵守、部活動削減のロードマップの策定、部活動指導員や業務アシスタントの導入、業務のスクラップアンドビルト等により、教職員の働き方改革を一層推進する。
- ②SGHの成果を活用しながら新しい県指定事業を総合的な探究の時間を中心に実施するとともに、海外フィールドワークを持続的に実施できる仕組みづくりを行い、ふるさとに貢献できるグローバル人材を育成する。

2 学習指導

- ①教室やPCルームのICT機器を整備・更新し、効果的に活用することで、多様な授業展開を行い、授業の質を高める。
- ②学校全体や各教科の目標に従って、探究活動を取り入れた授業改善に取り組むとともに、家庭学習のあり方を工夫し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する。

3 進路指導

- ①大学入学共通テストや英語民間試験等の高大接続改革について、十分な情報収集・分析を行い、生徒への正確な情報提供と年間行事予定の適切な再構築を行い、生徒の進路希望の実現を図る。
- ②総合的な探究の時間や各種講演会の実施など積極的なキャリア教育を通して、生徒の向学心や進路意識を高め、難関大学に挑戦する姿勢を養う。

4 生徒指導

- ①道徳教育推進教師を設置し、全体教育計画に基づいて、効果的な情報モラル教育や人権教育等を行い、生徒の人権意識を高める。
- ②学校周辺の教職員の交通安全指導体制の見直しを図る一方で、自動車学校の協力による自転車の安全運転教育を実施し、「交通事故ゼロ」運動を推進する。